

# 地域課題のタネ、どう見つけている？どう伝えている？

～動き出したら仲間が増えてくる、そして繋がる～

熊谷小児診療所



Since 1953



今年開院71年になります

熊谷市在宅医療支援センター  
コーディネーター  
熊谷生協病院  
社会福祉士(MSW) 松本 浩一

# 自己紹介



MCS写真

- 1977年12月生まれ 現在46歳
- 医療ソーシャルワーカー歴23年目
- 出身:埼玉県川口市 東洋大学社会福祉学科卒
- 卒後2年間 学童保育指導員
- 縁あって、医療生協さいたまへ入職。社会福祉士取得。  
※それまで病院に行った事もなかった自分が  
医療ソーシャルワーカーになる不思議・・・
- 埼玉協同病院(川口市)5年、埼玉西協同病院(所沢市)3年、埼玉協同病院・地域連携担当9年、熊谷生協病院6年目(在宅連携拠点コーディネーター3年目)  
※コーディネーターとしてはまだ駆け出しなんです
- 埼玉県医療社会事業協会理事



# 熊谷生協病院概要(在宅療養支援病院)

◎総病床数 105床

・3階病棟

一般病床 10床

地域包括ケア病床 40床在宅復帰率72%以上

・2階病棟

医療療養(強化型) 55床在宅復帰率50%以上

◎通所リハビリ 定員60名(介護50名・予防10名)

◎外来(内科・小児科) 1日平均88人(2023年度実績)

健診(人間ドック、事業所など各種)

◎訪問診療 成人約180名 小児8名

◎病児保育事業

◎無料低額診療制度は2014年度より実施

◎地域総合サポートセンター始動 2020年度～

◎熊谷市在宅医療支援センター受託 2022年度～ ※過去6年は他院





# 熊谷市在宅医療支援センターは連携室内に設置 連携室は3名の医療ソーシャルワーカーで構成

私たちは皆様が安心して療養生活を過ごして頂くために、病気やけがによって起こる様々な問題についてご相談に応じています。秘密は厳守いたしますので、お気軽にご相談ください。相談はすべて無料です！

佐藤

- ・SW歴 8年目 ・AB型
- ・趣味:野球観戦「日本ハム」  
「大谷翔平」

山口

- ・SW歴 14年目 ・AB型
- ・趣味:漫画ワンピースにはまっています！ ※過去卓球で全国レベル



佐藤

山口

松本

**熊谷市在宅医療支援センターのご案内**

熊谷市在宅医療支援センター(熊谷生協病院内)は、在宅での療養生活を希望する方が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できるよう、医療・介護が連携し、一体的な支援を提供できる体制を構築するための拠点(窓口)です。

熊谷市在宅医療支援センターでは、在宅医療を希望される方と医療機関や介護事業者との連携支援や、在宅医療に関する普及啓発活動を行っています。また市民のみならずからの在宅医療に関する相談事にも、専門スタッフが対応しますのでお気軽にご相談ください。

**チームで変える在宅医療**

～ 医師が在宅まで来て診察する在宅医療体制を構築 ～

- 場所: 熊谷生協病院内1階
- 住所: 熊谷市上之3854
- 連絡先: 048-577-7625
- 対応者: 社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)
- 受付時間: 月～土 9:00～17:00(土のみ13:00まで)  
※日曜・祝日・年末年始を除く
- 相談内容  
「退院して在宅医療と介護の両方が必要となるが、手続きが分からない。」  
「どうしても通院できないので、在宅で医療を受けたい」  
「寝たきりとなったが、住み慣れた家で療養したい」  
「かかりつけ医がない」等

コーディネーターは私ひとり。他2名の相談員もサポート

熊谷生協病院：地域連携医療福祉相談室 相談員：松本、山口、佐藤  
 連絡先：048-577-7625 (直通電話)  
 048-524-3841 (代表電話)  
 048-577-7826 (直通FAX)  
 対応時間：平日8:30-17:00 土曜8:30-13:00

# 熊谷市在宅医療支援センター受託(引継ぎ)のエピソード

- 2022年3月 小堀院長「よし！在宅医療支援センターの看板もらってきたぞ！  
松本、あとよろしく！！」  
松本「・・・ん？何？」
- 2022年4月 過去6年間担当していたコーディネーターさん(他院MSW)より引き継ぎ。  
約30分・・・。  
前CN「年に数回研修会があるので参加してください」「相談件数の定  
例報告があるので提出してください」  
松本「・・・、なんとなく分かりました」
- 同4月 熊谷市担当課職員と初回打ち合わせ  
担当者「いくつかの定例会議があるので参加してください。『くまねっ  
と』や『入退院支援ルール』をどう広げるかが課題なんです」  
松本「・・・、なんとなく分かりました」  
(本音)コーディネーターの仕事って何???
- 同5月 深谷市のコーディネーター鈴木氏へ教えを乞いに行く。本物がいた！  
専門職同士の連携をいかに広げるかを学ぶ。  
様々なツールの活用・研修会企画・人海戦術(とにかく広げる為に訪問)

とにかく何でもやってみよう、参加しよう、動いてみよう

# 取り組んできたこと①『広報』

- 熊谷市在宅医療支援センターの宣伝

地域の病院、ケアマネに案内送付

- 市報への掲載

「市報を見て・・・」の相談もちらほら。

- 専門職種（CM、リハビリ、薬剤師）等の

研修会にひたすら参加。顔を売る。

公的な後ろ盾があるんだ・・・と身が引き締まる

2023年度 市報8月号より

The image shows a page from the 2023 municipal newspaper, August issue. The page is titled 'みんなの健康' (Everyone's Health) and contains several sections. At the top right, there is a yellow box with the text '2023年度 市報8月号より'. Below this, there are several notices and advertisements. A red box highlights a section titled '在宅医療の相談窓口' (In-home Medical Consultation Office), which provides contact information for the center, including phone numbers and a QR code. Other sections include 'ヘルスアップ教室' (Health Up Classroom), '健康づくり課' (Health Promotion Course), '熊谷保健センター' (Kumagaya Health Center), '母子健康センター' (Maternal and Child Health Center), and '要介護センター' (Nursing Care Center). The page also features a QR code for '認知症専門センター' (Dementia Specialist Center) and a section for 'カラダ測定室' (Body Measurement Room).

# 取り組んできたこと②『会議への参加』

○行政、地域包括支援センター、社協との連携強化

①「熊谷市医療介護連携推進及び認知症施策推進会議体制構築部会」の委員として参加。

・構成メンバー: 医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護支援専門員、訪問看護ステーション、理学療法士、管理栄養士、包括支援センター、保健所、在宅医療支援センター、消防本部  
(事務局: 長寿いきがい課)

・議題は「ACP普及活動」「くまねっと」「連携会議・学習会」等を中心にその時々課題について検討

②市が主催する「地域ケア会議の助言者」および、地域包括支援センター単位の「地域ケア会議」や「定例会」に参加。

③2023年度～「熊谷市生活支援体制整備協議会」にオブザーバー参加。

・社協CSWと長寿いきがい課が事務局。

・委員は各地域包括支援センター担当者、民生委員、シルバー人材、長寿クラブ

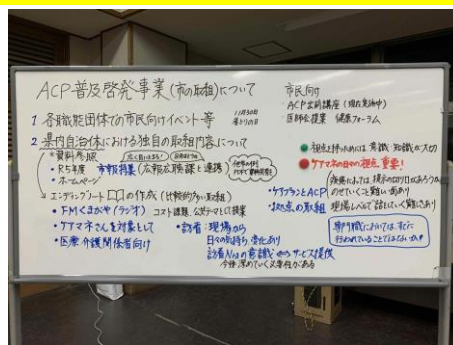
・高齢者が自分らしく暮らすための様々な生活支援サービスの充実、

住民主体の地域づくりの推進。

顔の見える連携のひろがり、新たな専門職種との出会い



# ①熊谷市医療介護連携推進及び認知症施策推進会議体制構築部会



司会は熊谷市医師会地域包括ケア担当理事の大塚貴博先生。書記は熊谷市職員。

# ②地域ケア会議や包括の定例会への参加



コロナ禍はZOOMで参加。最近是对面。アドバイザーとして発言する。

# ③熊谷市生活支援体制整備協議会



高齢者の足(移動)の問題。移動スーパーやデマンドタクシー等が議論されている。

# 取り組んできたこと③『現場の声』

○MSWとしての強み。現場の「困った」を直に聴ける。

○現場でよく聴くCMの声

「病院の敷居が高い」「どこに連絡、相談したらよいのか分からない」

「退院時の情報をもっと早く欲しい」「入院した事を知らなかった」

「入院時情報提供書は忙しいからすぐに出せません」等

○MSWや退院支援看護師の声

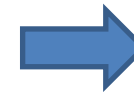
「全ての入院患者に関与していないから分からない事も多い」「退院カンファレンスは全員できないよ」「退院時の情報提供は看護サマリーでいいでしょ？」「転院調整や施設への退院が多いから、介護との連携はあまり重要視していない」

スムーズな連携を取るにはお互いを知ることから！  
まず、ここから取り組もう！

# ケアマネと病院の連携を強化するには？

- CM・MSW: 互いの仕事や役割・考え方を理解する
- CM: 病院の役割や違いを知る

入退院支援ルールに記載されている！



## 【実施したこと】

### ○研修企画

- ・それぞれの職種の理解と入退院支援ルールの普及啓発
- ・どう進めようかな??
- ・連携会議で1人の包括支援センター保健師さんに相談  
→「私たちの学習会でやりましょうよ！！」

## ①包括支援センター保健師部会企画(2023年9月)

テーマ:『医療相談員の仕事を知ろう!』講師

内容:MSWの仕事・ジレンマ、病院の種別・役割、ルールの説明等

アンケート:「MSWの仕事理解した、板挟みなんですね、病院の経営も大変」



ケアマネ連絡会の会長:「こっちの研修でもやってよ」

## ②ケアマネ連絡会研修企画(2024年2月)

テーマ:『医療介護の良質な連携を目指して医療ソーシャルワーカーの立場から』

内容:上記+3病院のMSWがシンポジストとしてケアマネの質問に答える

アンケート:「質問への回答内容が良かった、情報提供が大事、MCSの活用を学べた」



私:「年3回の研修会の1回はこのテーマでやりませんか?」

## ③ケアマネ連絡会 研修企画(2024年10月)

テーマ:『教えてもっと知りたい 医療機関のこと』

内容:市内11病院のMSWが参加して、「各病院の特徴報告」+「グループワーク」

アンケート:「病院側と話ができるのは有意義、顔の見える研修で良かった、敷居が高いと思っていたけど、『何でも聞いて欲しい』と言われて気持ち楽になった」

# 研修会後の変化

## ○多職種連携と相互理解が広がる

「初めて参加しましたが、こういう事が大事なんですね」

## ○新たな要望、課題

「もっと病院の情報を知りたい」「他のMSWとも話がしたかった」

「CMの困りごとをもっと聴いて欲しい」「病院に望むことをもっと知りたい」

「事例検討もやりましょう」「ここに来ていない人達にどう広めるか」

「病院はMSWがいるからいいけど、開業医の先生達の対応に困っている」



## 医療介護連携推進会議体制構築部会で報告

・アンケート結果等を元に報告

・医師会(部会長)「ケアマネやMSWの生の意見はとっても大事。

医師会で開業医の先生方にも報告したい。」

・行政担当者「継続して欲しい。こういう機会をたくさん作って欲しい。」



# 相談事例①

ケアマネより

「神経難病で人工呼吸器を使用している方のレスパイト(休息)入院を受け入れている病院はありますか？」



市内5か所の地域包括ケア病床保有の病院MSWへ  
問い合わせ → 2か所の病院で対応可能

次に相談来たときにまた対応できるかも・・・  
そういえば難病の在宅患者さん多いよな・・・  
他のケアマネにも伝えられるといいかも・・・

# 相談事例②

病院看護師より

「グリーフケアを行っている団体ってありますか？」



私「ある連携会で知り合った薬剤師さんが参加していたような・・・。」問い合わせる。

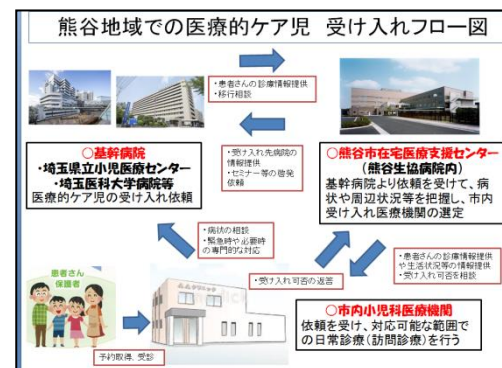
薬剤師「え～、覚えててくれたんですか・・・」

これも知らない人多いよな・・・  
今度、連携の会議で紹介しよう！



# 熊谷市内における「医療的ケア児」支援体制構築

- ・2022年6月、医師会担当理事の大塚先生より、医療的ケア児の対応を考えたいと提案。
- ・大塚先生が医師会内で医療的ケア児の診療についてアンケート実施。
- ・熊谷市在宅医療支援センターとして、  
基幹病院からの相談窓口および  
コーディネート業務を担って欲しい。
- ・地域の関係団体との連携強化  
太陽の園・茂木さん(熊谷市の医療的ケア児等コーディネーター)  
と懇談。
- ・2022年10月『熊谷市医ケアキッズ支援連携会議』発足。
- ・以降継続。当院のMSWが医療的ケア児等コーディネーターの資格を取得し質の向上も図る。



2022.11月 埼玉県立小児医療センターへ訪問



埼玉県立小児医療センター 外来師長さん

埼玉県立小児医療センター  
血液腫瘍科 医長 福岡先生

大塚ファミリークリニック大塚先生

埼玉県立小児医療センター  
総合診療科長 田中先生

埼玉県立小児医療センター 相談員篠崎さん

埼玉県立小児医療センター 連携センター 紫藤さん

太陽の園・医ケア児コーディネーター 茂木さん

熊谷市在宅医療支援センター 松本

2023.9月支援センターかけはし  
埼玉医大総合医療センターへ訪問



山口

支援センターかけはし・  
医ケア児コーディネーター 丹野さん

松本

『熊谷市医ケアキッズ支援連携会議』の様子。昨年度からスタート。市内の医ケア児に関わる行政(市役所、保健所、母子、保育所等)、放課後デイ、医療、特別支援学校など



# 埼玉県在宅医療連携拠点協議会 通称:「さいれん会」の存在

- 「コーディネーターの、コーディネーターによる、コーディネーターの為のプラットフォーム」
- コーディネーター同士の悩みを共有
  - そして仲良くなり、気軽に相談できる関係になる
  - コロナ禍でもZOOMで開催

1人コーディネーターが多いので、一緒に考えてくれる仲間の存在はめっちゃくちゃ大事！感謝しかない・・・



第5回開催時(2023年7月21日)の集合写真



# まとめ『コーディネーターの楽しさ』

○地域の様々な仲間と繋がれること

課題はたくさんあるけど、

多職種連携で解決できることがある！

○SW的に「ミクロ・メゾ・マクロ」の支援を実践

個別(ミクロ)支援(ひとつの困った)

集団(メゾ)支援(それって地域課題)

地域・社会(マクロ)支援(制度改善、政策提言)

ソーシャルワーカーの醍醐味＝ソーシャルアクション！！